

図書館アンケートによる 雑誌購読状況の分析

お茶の水女子大学 工藤和恵

「図書館アンケートによる雑誌購読状況」, 日本物理学会誌 **75**, 525 (2020).

図書館アンケート

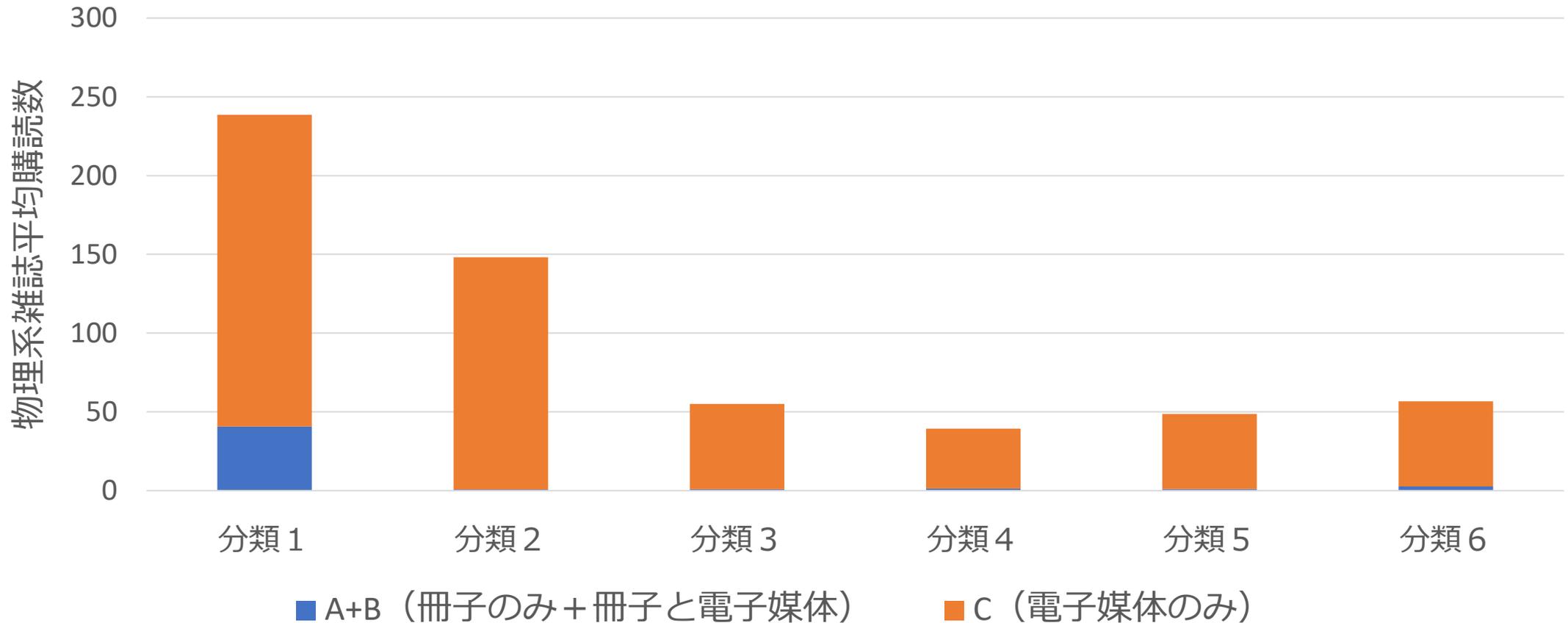
- 全国の大学、高専、研究所の図書館を対象にしたアンケート
 - 2018年6月にアンケートを依頼
 - 2018年8月までに重複を除いて267 機関からの回答

分類	回答数
分類1 (国公立大規模大)	10
分類2 (国公立中規模大)	21
分類3 (国公立小規模大)	75
分類4 (私立大学)	120
分類5 (高専)	28
分類6 (国立研究開発法人)	13

物理分野の研究者が
いない大学

- 分類3で17
- 分類4で20

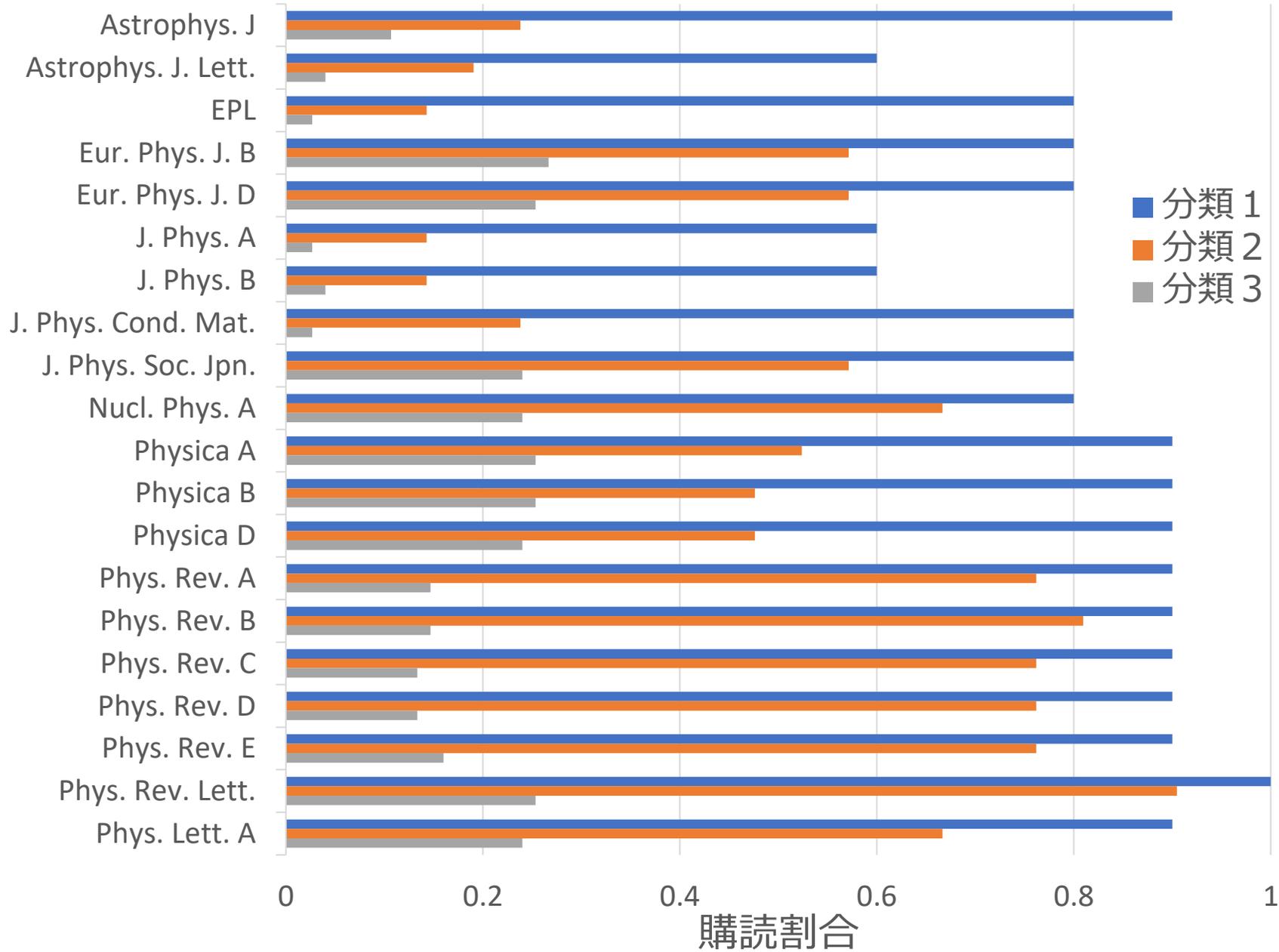
大学等規模別の物理系雑誌の平均購読数



- Journal of Citation Reports (Physics) にある天文および物理系学術誌414誌
- オープンアクセス誌を除く

国公立大

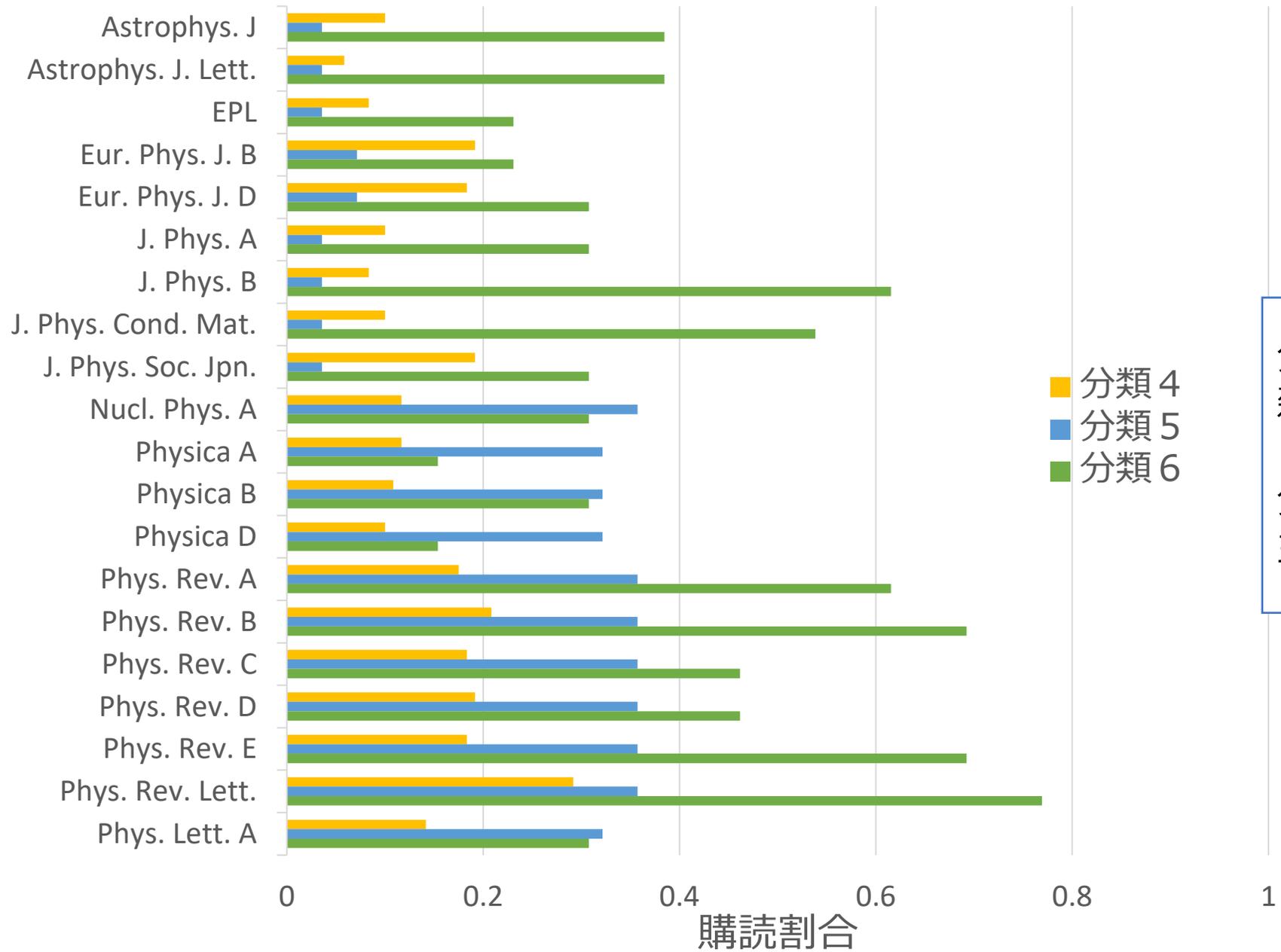
主要20誌の
平均購読数



分類1・2ともに9割
を超えたのはPhys.
Rev. Lett.のみ

分類3ではどの主要雑
誌でも3割に満たない

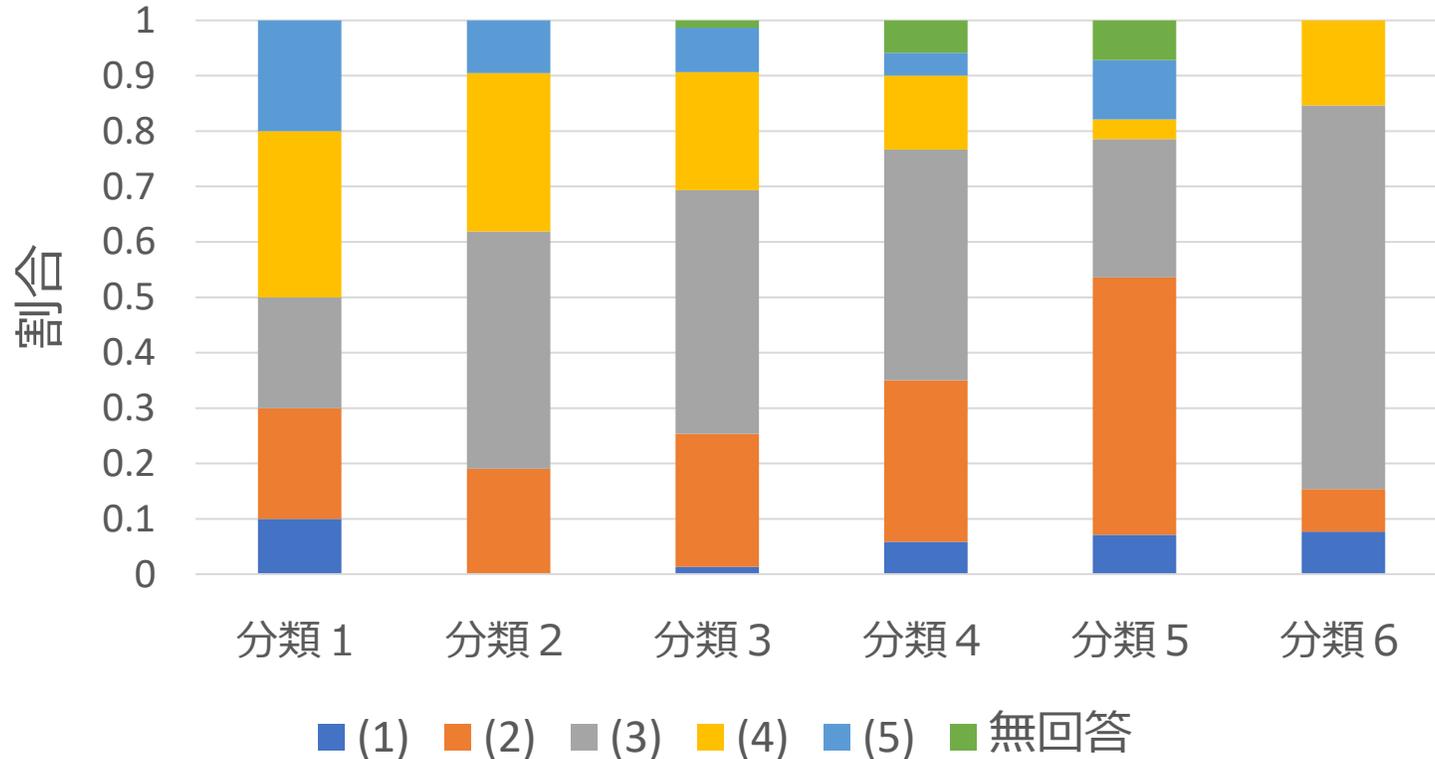
私立大・高専・研究所



分類4ではいずれの主要雑誌も3割に満たない

分類6でも8割に届いた主要雑誌はない

ユーザーの要求に対する満足度の推移

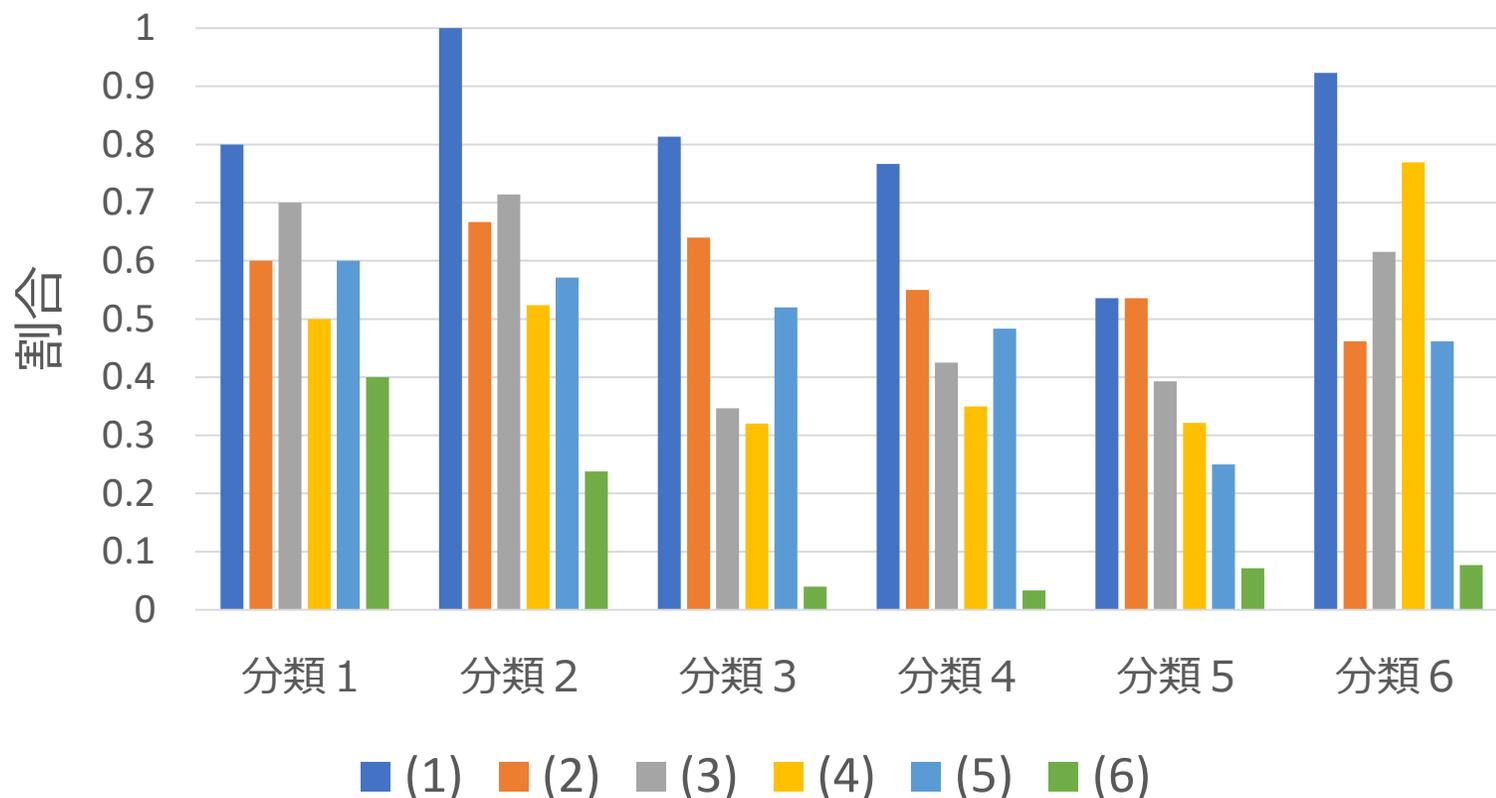


ここ数年で比較して、学術雑誌ユーザーの要求に対する満足度はどのように推移しているか？

- (1) よくなっている
- (2) 変わらない
- (3) 多少困難になっている
- (4) 困難になっている
- (5) 基幹的なジャーナルも読めない

- (3)(4)(5)の合計が分類1でも7割、分類2,3,6では8割前後→全体的に満足度が低下
- 分類1では基幹的なジャーナルも読めないという回答が2割もある
→大規模大学の中でも大学間格差が生じていることが推察される

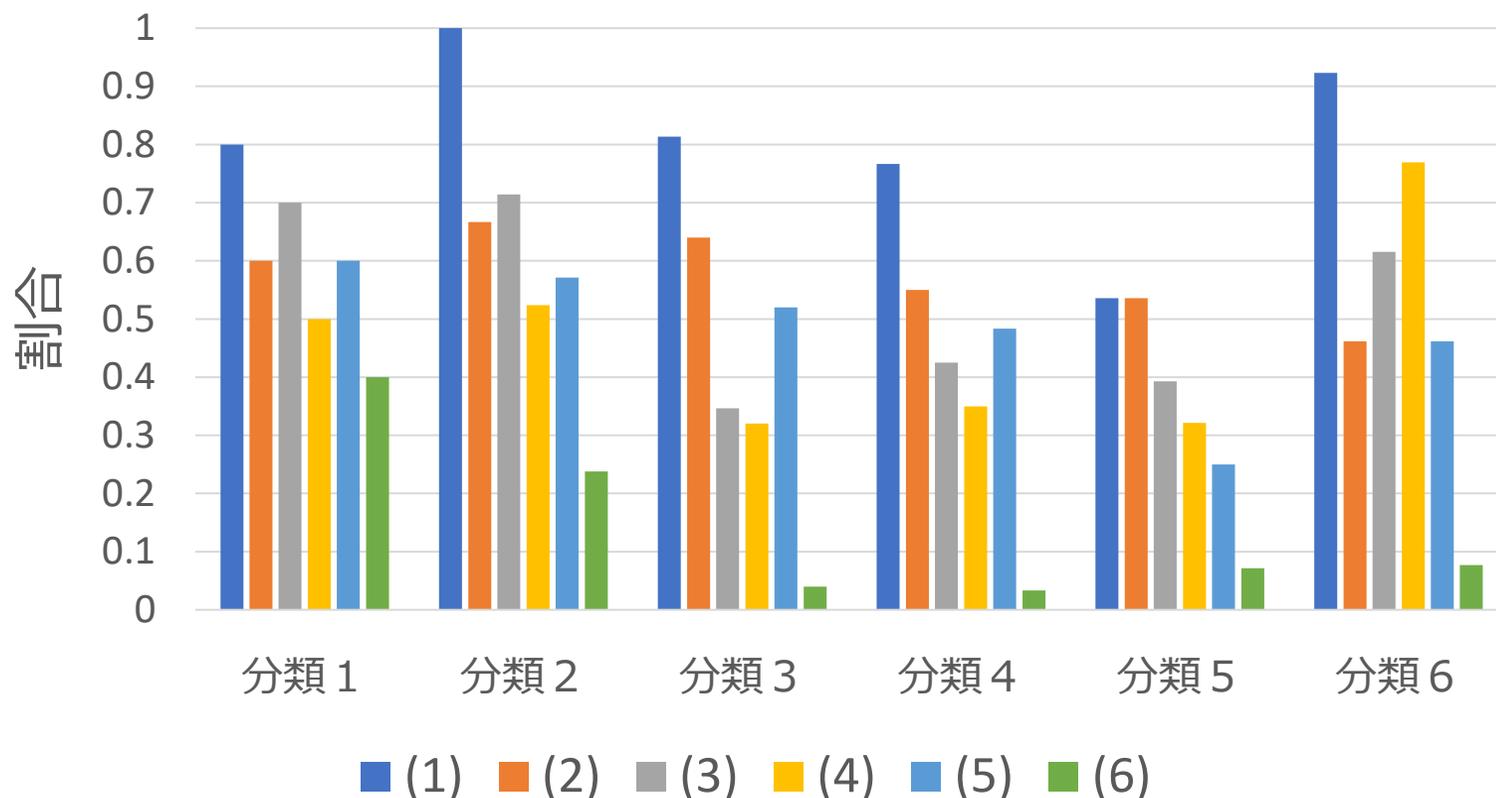
状況改善のための解決策



- 電子ジャーナルへのアクセス状況を改善するための解決策
- (1) JUSTICEなどの組織的な購読価格交渉力を強化
 - (2) グリーンOAの強化
 - (3) ゴールドOAの強化
 - (4) APC (Article Processing Charge) の公的負担の原則を推進
 - (5) バックファイルのナショナルサイトライセンス化を推進
 - (6) その他の方策を推進

- JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）が出版社と価格交渉をする方式を約8割が支持
- グリーンOA（機関レポジトリ等のセルフアーカイブ）を過半数が支持（分類6を除く）
- ゴールドOA（OAジャーナルへの投稿）とAPCの公的負担は大学等規模により異なる傾向

状況改善のための解決策



- 電子ジャーナルへのアクセス状況を改善するための解決策
- (1) JUSTICEなどの組織的な購読価格交渉力を強化
 - (2) グリーンOAを強化
 - (3) ゴールドOAを推進
 - (4) APC (Article Processing Charge) の公的負担の原則を推進
 - (5) バックファイルのナショナルサイトライセンス化を推進
 - (6) その他の方策を推進

- バックファイルのナショナルサイトライセンス化は分類1~4 でおおむね過半数の支持
- その他の方策：「カレントも含めたナショナルサイトライセンス化を推進する」「学会など研究者団体が表に立って交渉すること」など

オープンアクセスへの関心表明

オープンアクセスモデルへの転換を世界的規模で実現しようという宣言（第12回Berlin Open Access Conference, 2015年）への関心表明に、各機関として署名する計画があるかどうか？

JUSTICEは、2016年8月9日付けで、Open Access 2020のEoI (Expression of Interest, 関心表明)に、運営委員会委員長名により署名を行いました。

なお、本件につきましては、2016年度第2回JUSTICE運営委員会(2016年8月4日開催)において承認されたものです。

Open Access 2020(OA2020)は、学術雑誌のオープンアクセス出版への転換を目指す国際的なイニシアティブです。

OA2020の方針は、2015年12月8・9日に開催された国際会議 Berlin 12 において議論され、次の文書が作成されました。

Expression of Interest in the Large-scale Implementation of Open Access to Scholarly Journals(EoI)

[JUSTICE, <https://contents.nii.ac.jp/justice/news/20160816>]

署名している機関は世界で150機関以上に達している。日本からは2機関の署名にとどまっている（2023年3月時点）。
[OA2020, <https://oa2020.org/>]

オープンアクセスへの関心表明

オープンアクセスモデルへの転換を世界的規模で実現しようという宣言（第12回Berlin Open Access Conference, 2015年）への関心表明に、各機関として署名する計画があるかどうか？

- 大学：「JUSTICEが関心表明に署名しているため、単独で署名する予定はない」という回答が多かった。
 - 諸外国では機関単位で署名している事例が多い。
- 高専：「国立高等専門学校機構に所属しているため、単独での判断は難しい」という意見もあった。
- その他：「関心はあるものの具体的な検討や計画はしていない」「オープンアクセスに関する情報や知識が不足していて検討に至っていない」「オープンアクセスモデルへの転換における講習会を開催していただきたい」
 - 周知や理解がまだ十分に広がっていない現状がうかがえる。

まとめと提言

- 限られた予算で価格の高騰する雑誌の購読を維持するのは、各機関の努力のみでは困難である。
 - その意味で、コンソーシアムの果たす役割は大きい。
 - オープンアクセスに関する取り組みは、今後も引き続き、周知や理解を深める努力が必要である。
- 大学間格差が進んでいる現状を打開するため、多角的な対策を進めるべきである。
 - 主要物理系学術誌の購読割合が高い大学でも、必要な学術誌の購読が困難になっているという現状がある。
 - 多角的な対策: (1) JUSTICEなどの組織的な購読価格交渉力を強化, (2) グリーンOAを強化, (3) ゴールドOAを推進, (4) APCの公的負担の原則を推進, (5) バックファイルのナショナルサイトライセンス化を推進.